

新市の建設計画は現行システムでは

不可能なのは

太田 薫 議員



新たなネットワークで

将来ビジョンを

問 新市建設計画の素案が八月二十八日にだされた。新市の将来を決定づけるこの計画の策定に、住民の意見はどれほど反映されているのだろうか。素案は、後々修正しにくく見慣れない行政用語で表現されているため、そのまま地域懇談会などに提出されても住民には理解しにくい。合併説明会が合併説得会にならないように、表現に留意すべきだ。市民による市民のための新市建設計画になるように合併協議会以外にも、一市四町からなる各種団体のプロジェクトチームが必要なのではないか。

は合併後の新市の将来ビジョンを示すもので、新市建設の基本方針、根幹となる事業、公共施設の統合整備、土地利用構想、十年間の財政計画が盛り込まれる。従って、議会や地域住民が

このまま地域懇談会などに提出されても住民には理解しにくい。合併説明会が合併説得会にならないように、表現に留意すべきだ。市民による市民のための新市建設計画になるように合併協議会以外にも、一市四町からなる各種団体のプロジェクトチームが必要なのではないか。



行政システム 小委員会

合併の適否を判断する大変重要な役割を持つ合併市町村のマスタープランである。また、この計画を基に国や県の様々な財政支援が講じられる。

本町では、遊佐地域の将来ビジョンづくりのため町民による「レインボープロジェクト」が政策提言を行っており、また、平田町では百人委員会があると聞いている。各種団体やグループが新しいネットワークの中で、まちづくり等の議論を行ってほしい。住民主役のまちづくり、住民自治の強化を目差していきたい。